

あけましておめでとうございます。新しい年がスタートしました。今年は専攻科 4 期生にとって、教員採用試験や修了研究の完成を控えた 1 年です。この 1 年が正念場だと心得て、さらに努力をいたします。みなさまにおかれましては、昨年と変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

さて、季節は如月に入り大学の授業がほぼ終了しました。長い春休みがスタートしましたが、専攻科生はのんびりしてられません。これまで進めてきた修了研究もいよいよラストスパートを迎えています。

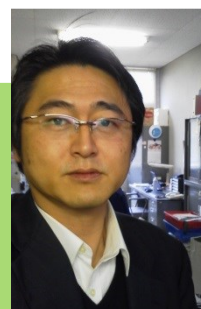
授業担当の先生方より



先々月号から引き続き、専攻科 1 年生の授業を担当してくださっている先生方から、授業の内容、授業や学生への思いなど、コメントをいただいています。今回は、櫻井秀樹先生と久保さつき先生からコメントをいただきました。

櫻井秀樹先生：衛生学特論（前期）、免疫学研究（後期）

それぞれ、本科で履修した衛生学および公衆衛生学、免疫学の発展的内容を学習します。毎回、テキストやプリントの輪読をして、私がコメント、質問する。時には自由に議論する形式の授業です。生活習慣病、アレルギー、食中毒、感染症など、その時のニュース話題を取り入れ、また養護教諭の職務内容とのとの関連を考えながら私も本読みの輪に入り、講義というよりは一緒に学んでいるようです。



久保さつき先生：栄養学研究（食品学を含む）

養護教諭は学校現場において子どもたちの心身の健康をサポートするエキスパートです。しかし、学校内で、たった一人で立ち向かうことは不可能です。学校全体で協力体制を作り、子ども一人ひとりに接していくことが大切です。私は、食の立場からサポートする栄養教諭との連携がスムーズにすすめていける養護教諭になってほしいと思い、この授業をしています。健康で豊かな生活には、適切な食生活が不可欠ですから。

